

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p><b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b></p>	<p><b>2 友達への思いやり</b></p>	<p><b>3 道徳・心の教育の充実</b></p>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>

3つの項目について、生徒・教職員・保護者の「4」「3」の割合は90%以上である。特に「友達への思いやり」では、生徒・教職員・保護者の「4」「3」の割合は90%を超えている。「一人一人の児童生徒の尊重」について、教職員の「4」「3」の割合が100%に対して、保護者は93%であった。特に、生徒同士の人間関係の様子等を、更に保護者に伝えていけるように、生徒同士や生徒と教師のつながりやかわりを学級通信や学校ホームページを活用して伝えていく。

②確かな学力を育む教育の推進

<p><b>4 意欲的な学習態度</b></p>	<p><b>5 授業力向上</b></p>	<p><b>6 ICT活用</b></p>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>

「意欲的な学習態度」において、教職員・保護者の「4」「3」の割合は88%であるのに対し、生徒は97%であった。タブレットを活用した授業づくりによって、生徒の主体的な取り組みが促されていると考える。また、生徒は、タブレットを活用した授業において、自分自身の学びに手ごたえを感じていると考える。「意欲的な学習態度」について、教職員・保護者の描く姿と、生徒の描く姿の差が、今回の数値に表れていると考える。生徒の目線で学びをとらえていくように努力したい。「わかる授業、楽しい授業に努めている」について、教職員の「4」「3」の割合は100%である。生徒・保護者は93%であり、昨年度より4%上がっている。「わかる授業づくりに努めている」について、教職員の「4」「3」の割合は100%である。生徒・保護者は93%であり、昨年度より4%上がっている。

③健やかな体を育む教育の推進

<p><b>7 健康づくり</b></p>
<p>子どもは、好き嫌いや食事や適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>家庭でのスマホやタブレットの使い方が適切でないために、睡眠時間が確保されていない傾向がある。今後も、生徒・保護者・教職員が連携して解決していく必要がある。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

②特別支援教育の推進

<p><b>8 児童生徒理解</b></p>	<p><b>9 いじめや問題への対応</b></p>	<p><b>10 学校の支援体制</b></p>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>

「先生方はいじめや問題があったときよく話を聞いてくれる。」について、生徒の「4」「3」の割合は91%であり、保護者は91%であった。日頃から生徒の良さを把握し、つぶやきに傾聴する姿勢を大切にしていきたい。「子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めている。」については、今後も生徒理解に基づき、生徒自分に自信が持てるような「声かけ」を行っていききたい。「学校の支援体制」について、保護者の「4」「3」の割合は93%、教職員は99%であった。年を追うごとに、多岐にわたって支援することが必要な生徒が増えてきている。更に支援体制の充実に努めていきたい。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

<p><b>11 安全と事故防止</b></p>	<p><b>12 施設・設備の安全管理</b></p>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>

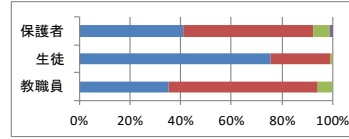
「4」「3」の割合が、生徒・保護者が99%と97%、教職員が100%であった。今後も安全教育と事故防止に向けて、力を注いでいきたい。

「4」「3」の割合が、生徒・保護者がどちらも93%、教職員が100%であった。今後も最適な学習環境の整備に力を注いでいきたい。

### ③家庭・地域社会との連携強化

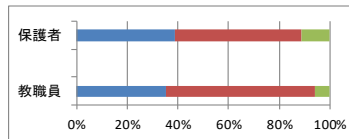
#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

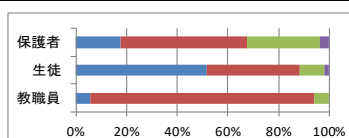


「教育方針・目標の理解」については、生徒・保護者の「4」「3」の割合は98%、93%であった。今後も、教育方針・目標について理解できる機会を設けていきたい。また、機会あるごとに本校の教育方針・目標について触れていきたい。「家庭や地域との連携協力」について、保護者の「4」「3」の割合は88%で、教職員の割合は94%であった。コロナ禍の中、連携が難しい状況であるが、生徒を育てる視点を共有して取り組んでいきたい。

### ③本校の教育

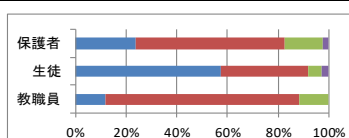
#### 15 夢の実現へ挑戦する力

生徒は、夢の実現を目指して挑戦していますか。



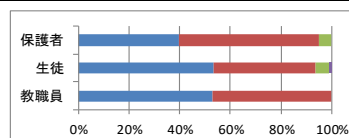
#### 16 共に前進する力

生徒は、失敗しても、いろいろな人（友達、先輩、先生等）と協力しながら、粘り強く取り組んでいますか。



#### 17 働き方改革

植木北中の先生方の「働き方改革」は、進んでいると思いますか。



「夢の実現を目指して挑戦」については、「4」「3」の割合が教職員が94%、生徒が88%、保護者が68%であった。夢中になれるものを見つけ、力が注げるように3者連携して取り組んでいきたい。「失敗しても、いろいろな人と協力しながら粘り強く取り組む」では、生徒が92%、保護者・教職員は83%、88%であった。生徒の取り組みの様子を教師が十分把握できることや、保護者へ伝えていける機会を作ることに取り組んでいきたい。「働き方改革は進んでいるか」では、本年度からスタートしたが、順調に取組を進めることができていることがわかる。今後も、取り組みを進めていきたい。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 生徒同士が「よさや可能性」を認め、尊重し、つながるために、生徒指導の3機能を生かし、授業や学級・学年経営で生徒同士、生徒と教師、教師同士の関係性の質を高める。
- 道徳や学級活動及び学校行事や生徒会活動、日々の生活の中で、生徒の「よさや可能性」を見逃さず、生徒に自己存在感、自己肯定感を育成し、共に成長していくじじめのない集団づくりを行う。その様子を、学級通信や学校ホームページ等を有効に活用し、保護者へ発信する。
- 学校教育目標の達成に向け、日々の教育活動を、PCDAサイクルを通して見つけ、活動の改善を図る。
- 全教育活動をキャリア教育の視点に立ち、社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育成するために、教科横断的、学年横断的なつながりを認識して、日々の教育活動に取り組む。
- ICT・タブレットを活用し、生徒同士の対話や協働、学び合い、教え合う授業の構築を更に進める。
- 勤務時間の自己管理でき、組織の一員として、互いに協力し合い、学び合う職員が育つ学校づくりを更に進める。
- 生徒の声をもちに、生徒・保護者・教職員が生徒心得について意見を出し合い、よりよい方向へと進めていく取り組みを充実させる。また、地域との連携を充実させ、生徒の主体性をはぐくみながら、花いっぱい学校づくり、地域づくりに取り組む。
- 保護者・地域、関係機関とつながりを深めるタブレット活用に取り組む。

### 学校関係者評価

- 授業を参観し、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。教科指導等では、タブレットの活用により、子どもが生き生きと、楽しく授業に参加するとともに、一人一人のニーズに応じて工夫している様子がうかがえた。先生方の工夫や努力が、子どもたちの力を伸ばしていることが実感できた。
- 子どもたちはICT機器での知識の取得に慣れている状況がある。ICTの活用を通して、生徒に、「わかる・楽しい」と感じる授業づくりにつなげて欲しい。授業改善のよい機会であると思う。しかし、ICT活用が目的ではない。手段として捉え、伝えていける力（説明する力・プレゼンテーション力等）と、自分の学びを振り返る時間を確保して欲しい。
- さまざまな事情を抱えている子どもがおり、細やかな配慮をしながらすべての子どもたちが心豊かに育ってくれるようにしていきたい。生徒はどんな形であれ、もつ自分にかかわって欲しいという気持ちを持っている。現在も細やかに対応していただいているが、今後も頑張って欲しい。
- コロナ禍の状況で、取り組んできたことを、今後も生かしていけるようにしてほしい。今までの取組から、変わっていくよい機会だと感じる。こうしたことが、先生方の働き方改革にもつながっていくと思う。